

日本財団第3回 WORK ! DIVERSITYカンファレンス (2022年3月11日)

就労支援で 助け合える地域を作る

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡

津 富 宏 (静岡県立大学)

市民自治
相互扶助
萃点
生態系
地域の再組織化

青少年就労支援ネットワーク静岡 市民のネットワークによる就労支援

若者就労支援

LET'S SHIZUOKA GO! MODEL

地域で支える
就労支援ハンドブック

静岡方式
行こう!!

掲げるニート・ひきこもりを
みんなでおせっかい

静岡方式は、とてもシンプル。
「どんな人でも働ける」
という信念を、
たたちに実行に移すだけ!

津富 宏+

クリエイティブ
NPO法人
青少年就労支援ネットワーク静岡 ● 編集
文庫本 2000円＋税

生活困窮者自立支援も

LET'S SHIZUOKA GO! MODEL

相互扶助の
社会をつくる

2!!

静岡方式
行こう!!

「困りごと」が作り出す
まちおこし

「静岡方式」とは、まちづくりの方法のひとつ。人々がつながる中心に「困りごと」がある。「困りごと」をきっかけとして人々がつながり、まちづくりがすすむ。このかたちこそ、「静岡方式」から全国に広がるべき点である。 — 著者より

中央大学准教授 宮本太郎

津富 宏+

青少年就労支援ネットワーク静岡 ● 編集

青少年就労支援ネットワーク静岡の理念

青少年就労支援ネットワーク静岡は、静岡県内の働きたいけれども働けない人びとに対して、市民のネットワークによる伴走型の就労支援を提供することを通じて、働く喜びを分かち合える、相互扶助の社会をつくることを目的とします。

就労支援の原則

- 1 働けると信じる
- 2 伴走する
- 3 地域を再組織化する

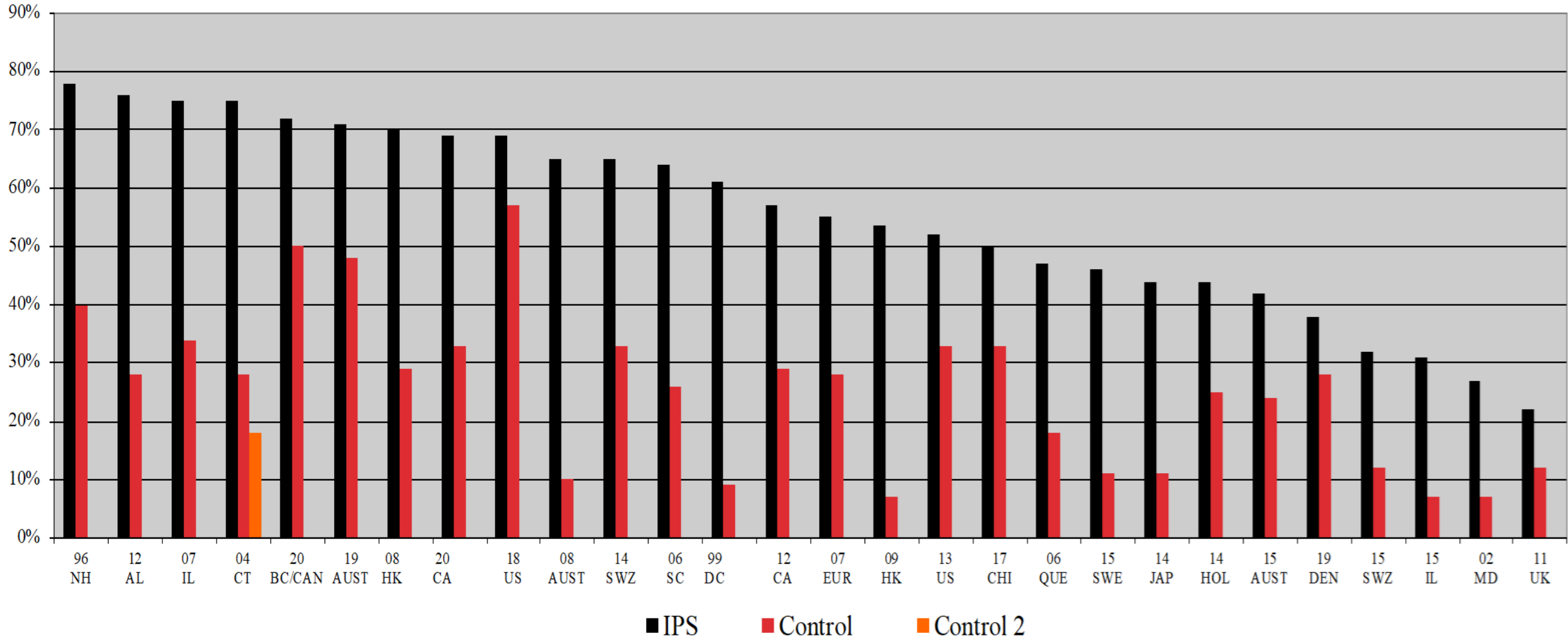
1 働けると信じる (IPS)

1. 一般雇用（最低賃金）を目指します
2. 働きたい人はどんな人でも支援します
3. 医療の支えを得ます
4. 本人の好みを尊重します
5. 訓練やカウンセリングではなく、ただちに職探しを始めます
6. 本人の好みに沿って、地域の職場を探します
7. 本人の望む限り、ずっと支援します

「好きなこと・好きなもの・好きな人・好きな場所」

IPSの効果

働けるといふ前提を持つことの価値



好きなこと・好きなもの・好きな人・好きな場所

をもとに

提案してみましよう

2 伴走する



神奈川県に住む70代の会社の社長さんでもあります🌸諦めないボランティアさんのお一人です♡ 一度会いに行った時に(^^)

、、、なんかあって大変だったらさ、うちに来なよ(^^) 別に人生長いんだし僕も昔家出してからここに居ずいちゃったんだ。気づいたら社長してた(^^)好きな仕事だなあって感じたんだよな～始め嫌だったけど△

このお話がきっかけになり、まだ10代ですが、優しくって真面目な髪の毛セットが得意な若者くんが向かいました🌸(^^)

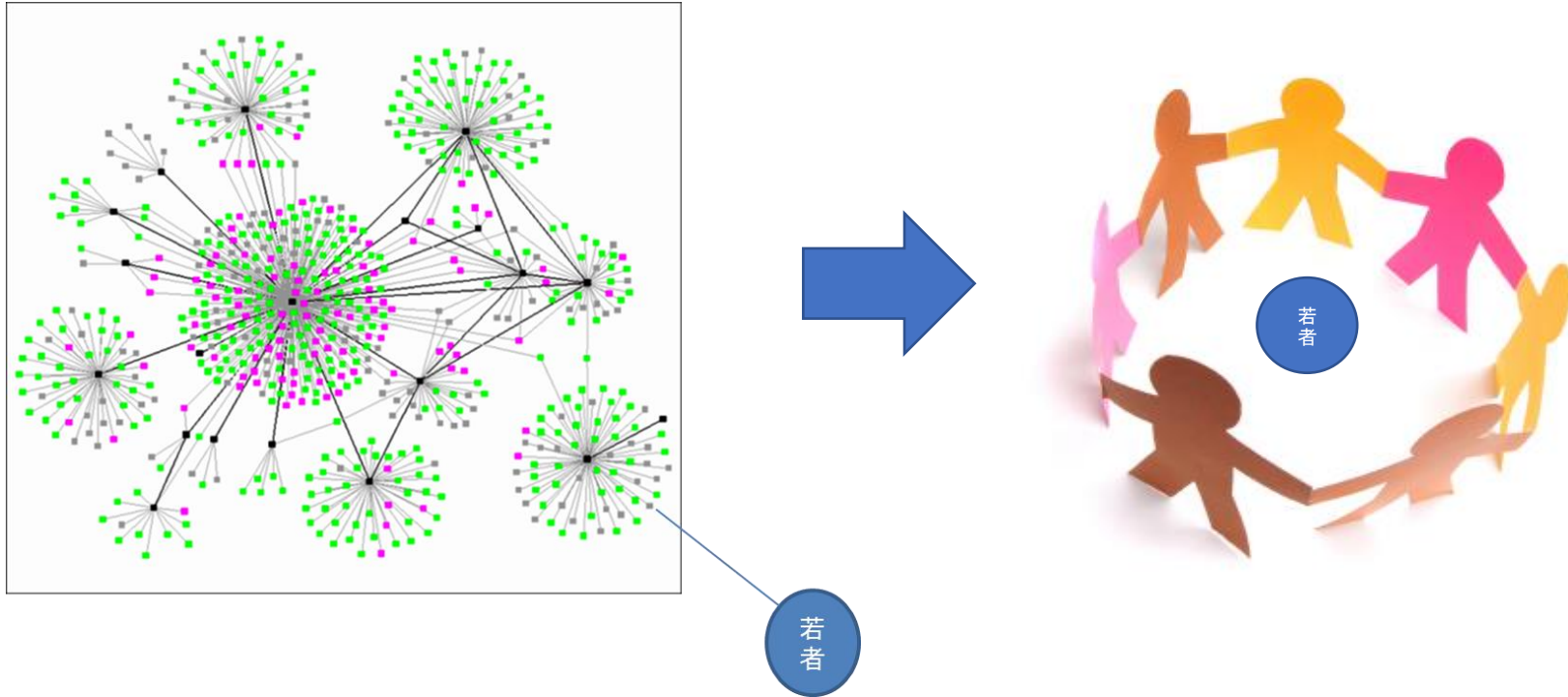
あれから1ヶ月です♡ ボランティアさんは最初に知り合いのお店に2人だけで伴走♡♡(^^) 2軒目でホテルマンやフロント等も目指せるように、周りのスタッフさんたちにも紹介をしてくれました。

毎日毎日早起き6時半ですがお迎え車もあり(^^)です。歯磨きしながらだって乗り込めます🌸(^^) 少しずつ少しずつ周りの方より2時間短い時間からスタートされました。

助けの言葉や行動があるとがんばれちゃいます♡♡(^^)♡ 色々な方に囲まれたら浮かぶ事も考える事も変わるんだらうな(^^)

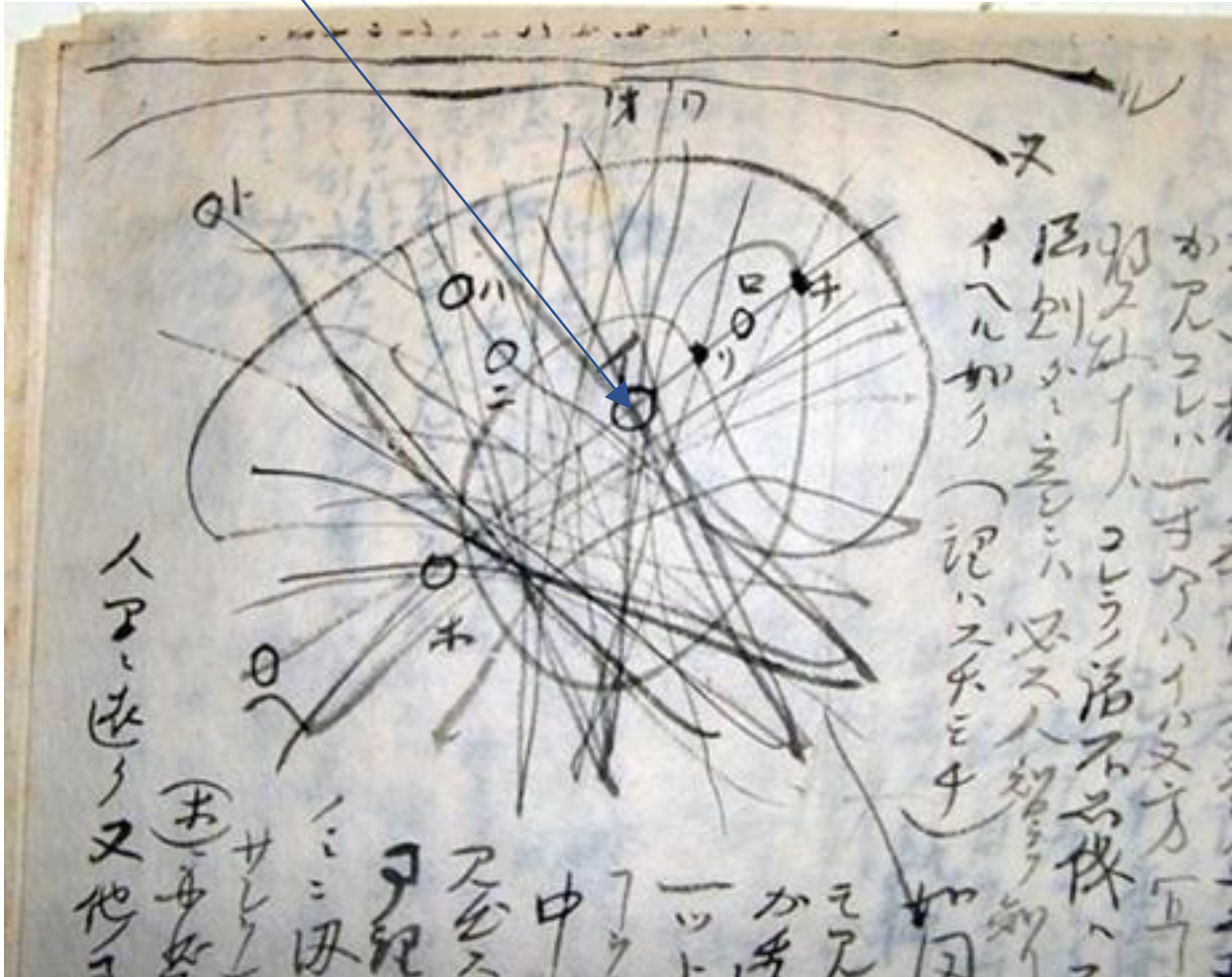
地域のたくさんさんの「いい人」に
どんどん出会っていきましょう

3 地域を編み直す（再組織化する）



萃点

萃点（すいてん）とは【南方曼荼羅】



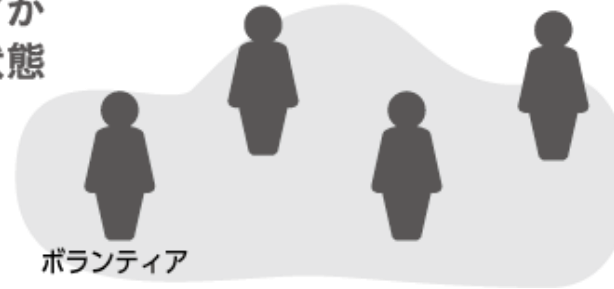
さまざまな因果系列、必然と偶然の交わりが一番多く通過する地点・・・そこから調べていくと、ものごとの筋道は分かりやすい。・・・そこですべての人々が出会う出会いの場、交差点みたいなもの・・・非常に異なるものがお互いにそこで交流することによって、あるいはぶつかることによって影響を与えあう場—それが萃点

（鶴見和子『南方熊楠・萃点の思想』藤原書店）

伴走で萃点をつくる

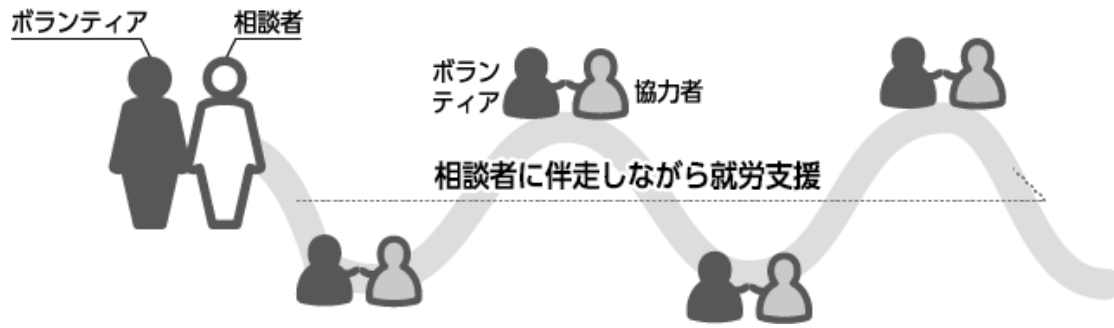
step
1

核となるボランティアが
数名しかいない初期状態



step
2

ボランティアは就労支援の伴走過程で、
協力者にボランティア登録をお願いします。



step
3

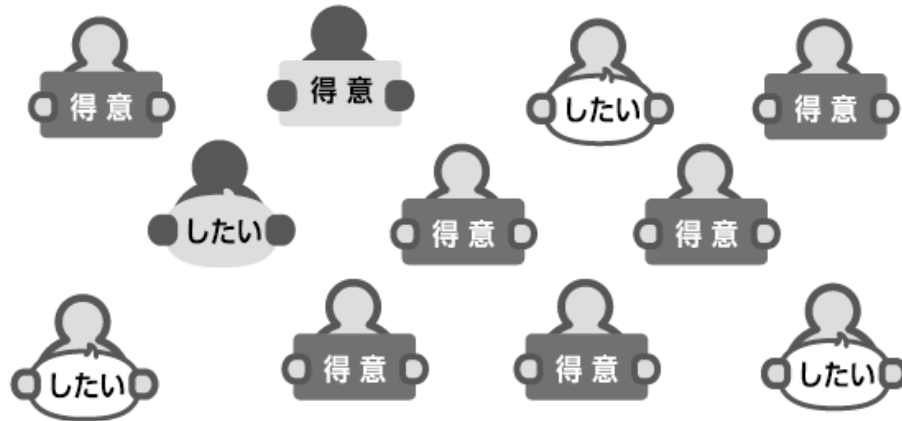
ボランティア登録者全員へメールリストを送付。
地域の困りごとを共有する土壌をつくる。



伴走で萃点をつくる

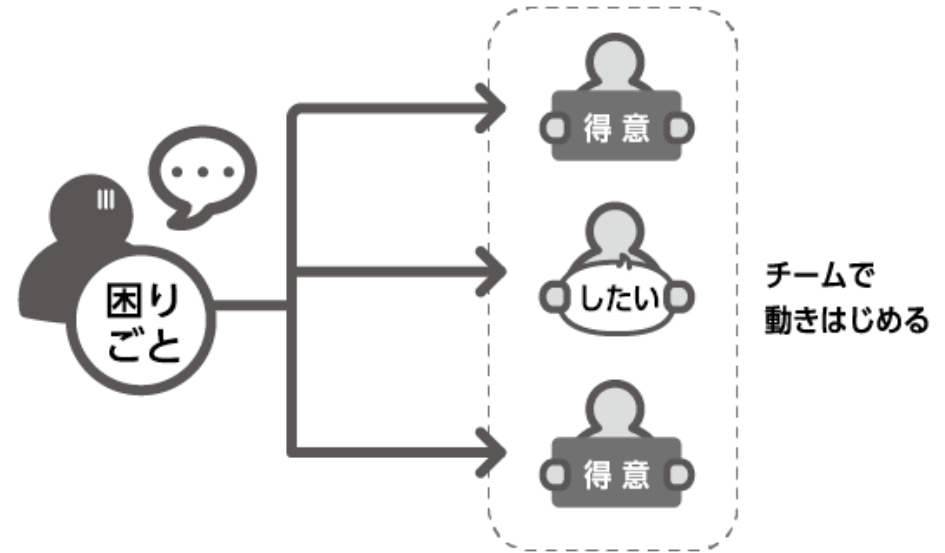
step
4

ボランティア登録者の得意なこと、やりたいことがわかるように、ボランティア登録者が集まる機会をたくさんつくる。



step
5

支援する人は「困りごと」に直面したときボランティア登録者の誰に頼めばよいかわかるようになり、「困りごと」を分かち合える。



萃点が自己増殖し、生態系となる



萃点

ごちゃまぜの場

偶発的に伴走が始まる交差点

化学反応の期待

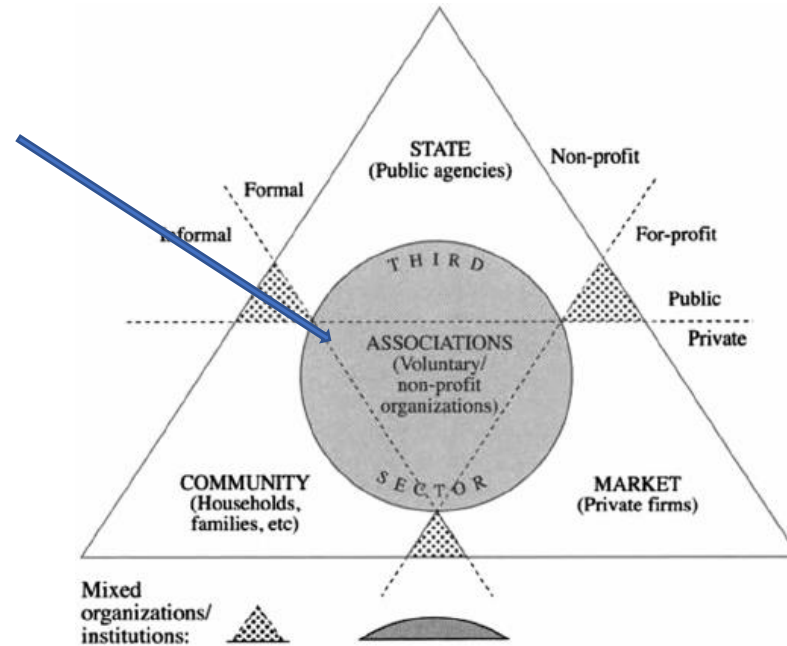
渡邊) 気がついたら巻き込まれてるっていう。マラソンもそうだし、うちの若者は15歳からなので不登校の子も来ているし、引きこもって慣れるために来てるって子もいるし、働きたくないけど親に何してるんだって言われるのが嫌で来てる子もいる。で、働きたい子に企業に見学行ってみようかっていう時に、他の子(働きたくない子)と一緒にドライブに行かないって誘うんですよ。するとうっかり(働きたくないって言っていた側が)次の日から働いてたりするんですよ(笑)なんか行って働く気になっちゃうってね。働きたいって言ってなかったよねって。その子が面接しちゃったりうっかり巻き込まれるんですよ。

池田) 巻き込まれて働いちゃった子に「なんか働いてるらしいじゃん」って言ったら「そんなつもりはなかったんですけど、、、なんかいつの間にか働いてたんですよ」って(笑)

社会のイメージ(ペストフの三角形)

国家-再配分

北欧では
協同組合が
隙間を埋める
という論



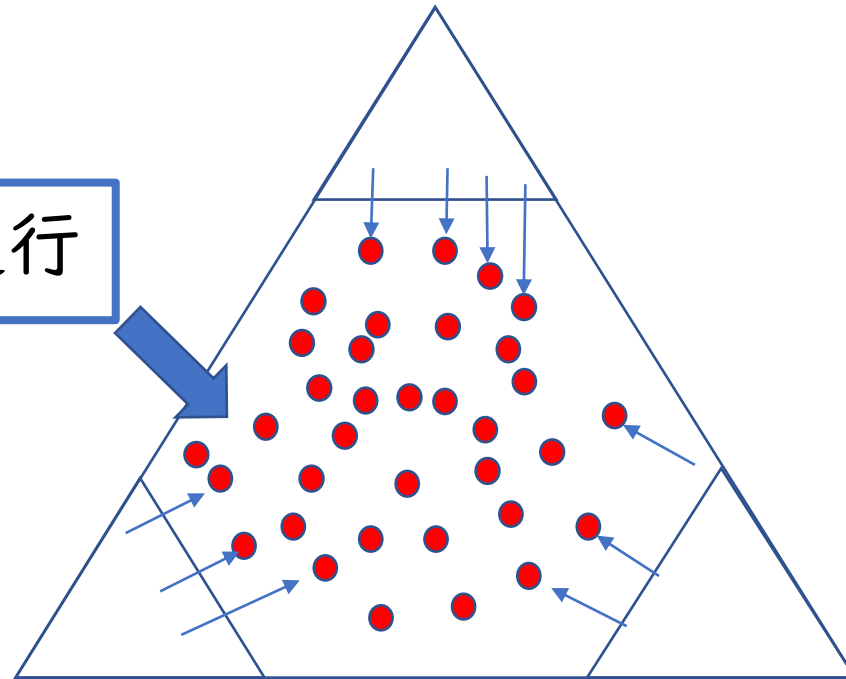
家政-互酬性

市場-交換

日本で起きていること

国家—再配分

社会的排除の進行



家族—互酬性

市場—交換

地を這うように

いし・かわら・つぶてのごとくなるわれら（親鸞『唯信鈔文意』・『真宗聖典』）

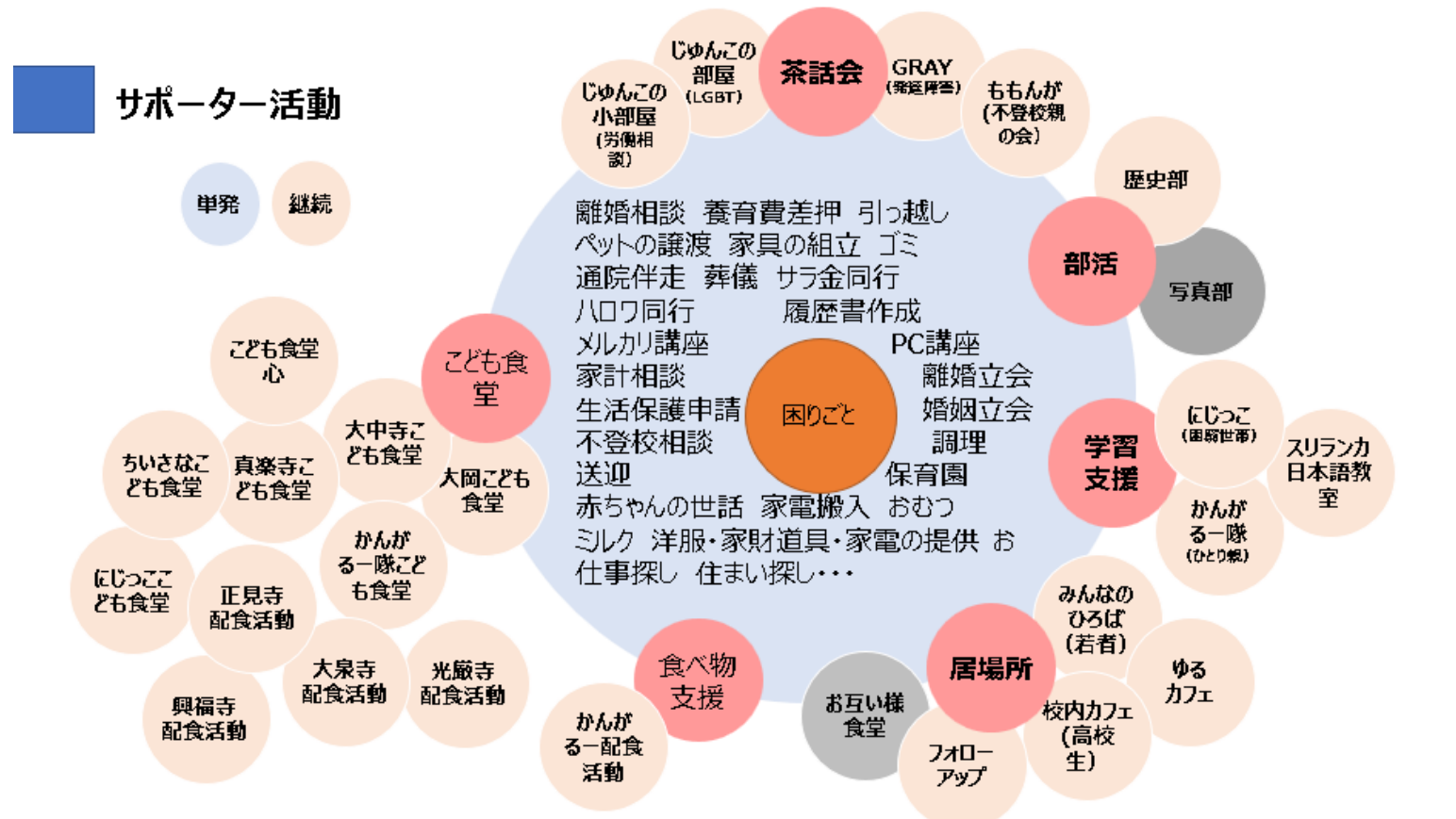
貧しく小さくされている人たちを通して神が
はたらかれることを信じて…その人たちと連
帯する（本田哲郎『釜ヶ崎と福音』）

ペストフの三角形の真ん中で起きていること

萃点を通じた

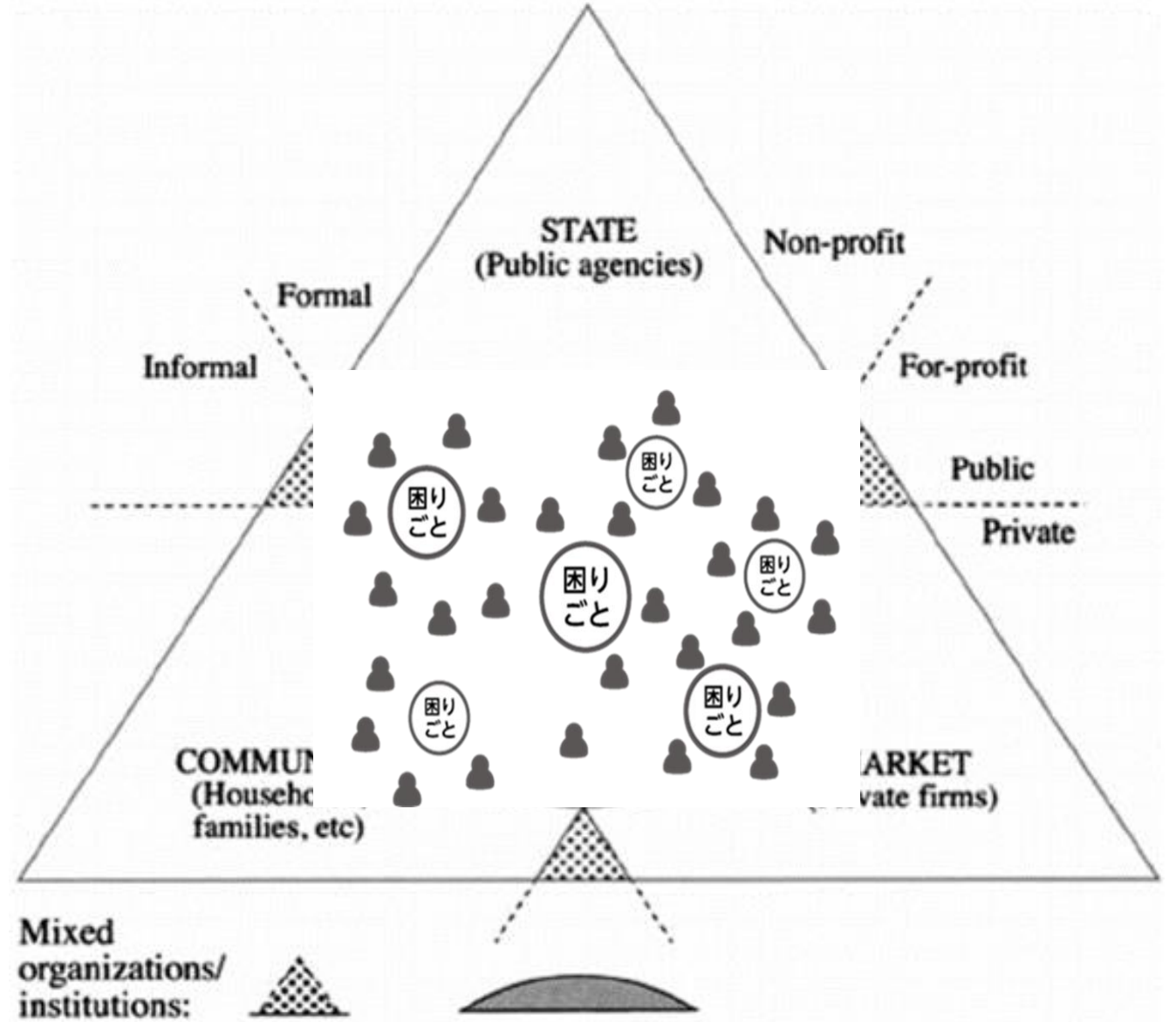
地域の編み直し

支援（萃点）の生態系



困りごとを
萃点として
わらわらと集まる

隙間を自治する
隙間をコモニングする



大事なこと

一人一人のストーリーに現れる、登場人物
(サポーター)を増やすこと

これが、社会的包摂

私たちがしていること： 市民自治

私たちが構成する
私たちが主体である
私たちのための地域

community of us, by us, for us